
愛と悲しみと。

零詩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛と悲しみと。

【Nコード】

N0777H

【作者名】

零詩

【あらすじ】

彼女にこの気持ちを伝えたい。彼にこの気持ちを伝えたい。そんな二人を待つ未来は……？

好きだ。

彼女が大好きだ。

彼女は、同じクラスメイトで、席が隣で、そして俺の『仕事』の相棒。

俺は彼女がどうしようもなく好きで好きでたまらなくなっただが、俺と彼女は『仕事』以外では全く係わり合いにならない存在だから、好き。とも言えない。

言ってもいけない。そういう実らない恋。

好き。

彼が大好き。

彼は、同じクラスメイトで、席が隣。そして私の学校生活とは違う『仕事』の仲間。

私は、彼がもうたまらないくらい好きなんだけど、学校では他の男子女子とおなじで係わり合いにならない存在。だから、この気持ちを相手に伝えられない。

伝えてはいけない。そういう実らない恋。

俺は、もうこの気持ちを終わらせたくないから、言うことにした。

『好きだ』と。

だめもとだけれど言ってみることにした。即座に『……何言ってるの?』とか言われて終わりそうだけどな……

それに『仕事』の方、まあ内容は『物の怪退治』なんだが、タイミ

ングがずれると死ぬことだってある。そのタイミングに異常をきたすかもしれない。

それでも言ってみるんだ。

私は、自分の気持ちに嘘がつけなくなるから、言うことにした。『好きです』って。

だめもただけれど言ってみることにした。即座に『何言ってるんだ？は』とか言われてその会話は終わり。みたいな感じだろうけど。

それに『仕事』の『物の怪退治』にも影響が出るかもしれない。その影響で死にたくないし、彼にも死なれたくない。

それでも言ってみるの。

真つ赤な満月の昇った夜。

一人の男と、一人の女が、人間ではない蠢くモノと、戦闘をしている。明らかに蠢くモノのほうが多い筈なのに、次々に薙ぎ倒して消滅させていく。だが、蠢くモノ、『物の怪』は減らない、むしろ増えていつているようだ。

「くう……何とかならないかあ？ 散葉あゝ」

彼が彼女の名前を呼んだ。

「さあ？ 『巢』が近いんですよ。おそらく。どう？ 私の答えは、麗亜？」

彼は彼女の言うことを一言も聞き洩らさない様に耳を彼女の口元へと近づける。顔はもう涙でぬれている。

「ひとつだ……け、……いいた……いことがある……るの……」

「……………大好き……………」

彼女はそう言い、光の粒子となって消えた。

彼の頭には、彼女の死と、その言葉が残り、森には大きなクレーターと、小さな光の粒子が残った。

空には赤い赤い満月が彼を照らしていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0777h/>

愛と悲しみと。

2010年11月20日15時19分発行